

## 2023年5月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年10月14日

上場会社名 株式会社ヴィレッジヴァンガードコーポレーション 上場取引所 東  
 コード番号 2769 URL <https://www.village-v.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 白川 篤典  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 佐々木 敏夫 TEL 052-769-1150  
 四半期報告書提出予定日 2022年10月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年5月期第1四半期の連結業績（2022年6月1日～2022年8月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年5月期第1四半期	6,038	1.2	18	—	24	—	4	—
2022年5月期第1四半期	5,967	△12.8	△119	—	△110	—	△148	—

(注) 包括利益 2023年5月期第1四半期 △8百万円 (—%) 2022年5月期第1四半期 △152百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年5月期第1四半期	△3.33	—
2022年5月期第1四半期	△22.82	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年5月期第1四半期	25,099	7,602	30.2
2022年5月期	24,718	7,730	31.2

(参考) 自己資本 2023年5月期第1四半期 7,586百万円 2022年5月期 7,714百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年5月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年5月期	—	—	—	—	—
2023年5月期（予想）	—	—	—	—	—

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

2. 上記「配当の状況」は、普通株式に係る配当の状況です。当社が発行する普通株式と権利関係の異なる種類株式（非上場）の配当の状況については、後述の「種類株式の配当の状況」をご覧ください。

3. 当社は定款において第2四半期末日及び期末日を配当基準日と定めておりますが、現時点では当該基準日における配当予想額は未定であります。

### 3. 2023年5月期の連結業績予想（2022年6月1日～2023年5月31日）

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
通期	28,824	7.7	426	21.2	380	△9.5	156	34.9

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P. 9「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P. 9「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2023年5月期1Q	7,861,700株	2022年5月期	7,861,700株
2023年5月期1Q	13,201株	2022年5月期	12,101株
2023年5月期1Q	7,848,548株	2022年5月期1Q	7,852,592株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

○種類株式の配当の状況

普通株式と権利関係の異なる種類株式に係る1株当たり配当金の内訳は以下のとおりです。

A種優先株式	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年5月期	—	0.00	—	80,000.00	80,000.00
2023年5月期	—				
2023年5月期（予想）		0.00	—	80,000.00	80,000.00

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	9
(追加情報) .....	9
(グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱いの適用) .....	9
(セグメント情報) .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間(2022年6月1日～2022年8月31日)におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響はあるものの、経済活動が徐々に再開され景気は緩やかな回復基調で推移しました。しかしながら日本経済とつながりのある海外諸国における地政学的リスクや世界経済に対する不確実性の影響などが懸念され、依然として先行き不透明な状況が続いております。

小売業界におきましても、コロナ禍での新たな生活様式の中で在宅でも楽しめる事業が定着する一方、実店舗販売は、消費者動向の変化や新型コロナウイルス感染症の感染者数増加などに影響を受けることもあり、コロナ禍の共存を模索する状況が続いております。

このような状況の下、当社グループはお客様の期待を超えるべく、店舗ごとに独創的な空間を創出し、更にはPOPUP催事出店の強化や、オリジナル企画によるクリエイター様や他企業様とのコラボ商品のWEB販売などEC事業の拡大を図り、店舗事業とEC事業を連動させた、より独創的でヴィレッジヴァンガードでしか味わうことのできない新たな事業価値の創出・向上に取り組んでまいりました。

このような事業活動の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、6,038百万円と前年同四半期と比べ70百万円の増収(1.2%増)となりました。売上総利益は、引き続き仕入のコントロール、アウトレット店舗での在庫の消化を継続的に取り組んだ結果2,482百万円と前年同四半期と比べ102百万円の増益(4.3%増)となりました。また販売費及び一般管理費の削減により、営業利益は18百万円(前年同四半期は119百万円の営業損失)、経常利益は24百万円(前年同四半期は110百万円の経常損失)、親会社株主に帰属する四半期純利益は4百万円(前年同四半期は148百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失)となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

#### ①ヴィレッジヴァンガード

ヴィレッジヴァンガードは、お客様に買い物を楽しんでいただくため、独創的なワン・アンド・オンリーの空間の創造を目指しております。

各店舗では、書籍・SPICE(雑貨類)及びニューメディア(CD・DVD類)、アパレル等の商材を融合させ、店舗独自の「提案」を展開しております。

主な業態店舗としては、「遊べる本屋」から「コト」も含め取扱分野を広げた「ヴィレッジヴァンガード」、大人も楽しめる空間を演出したライフスタイルショップ「new style」、アウトレット業態「Vintage Vanguard」、オリジナル企画商品などのWeb販売「ヴィレッジヴァンカード オンラインストア」等を運営しております。

当第1四半期連結累計期間の経営成績につきましては、売上高は、6,038百万円と前年同四半期と比べ70百万円の増収(1.2%増)となりました。売上総利益は、引き続き仕入のコントロール、アウトレット店舗での在庫の消化を継続的に取り組んだ結果2,482百万円と前年同四半期と比べ102百万円の増益(4.3%増)となりました。また販売費及び一般管理費の削減により、営業利益は18百万円(前年同四半期は119百万円の営業損失)となりました。

当社グループの当第1四半期連結会計期間末の店舗数は、直営店1店を閉鎖したことにより、直営店312店、FC店5店の合計317店となりました。

#### ②その他

当社グループには海外事業として海外子会社が2社ありますが、比利緹卡(上海)商貿有限公司につきましては2016年3月末をもって店舗を閉鎖、TITICACA HONGKONG LIMITEDにつきましても2017年6月末をもって店舗を閉鎖しております。今後、順次、会社清算へ向けた手続きを進めてまいります。

## (2) 財政状態に関する説明

## ①資産、負債及び純資産の状況

## (資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて2.2%増加し、22,014百万円となりました。これは、売掛金が155百万円減少したものの、現金及び預金が607百万円増加したことなどによるものです。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて2.7%減少し、3,085百万円となりました。これは、建物及び構築物(純額)が17百万円、ソフトウェアが28百万円、差入保証金が29百万円減少したことなどによるものです。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて1.5%増加し、25,099百万円となりました。

## (負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて17.3%増加し、9,447百万円となりました。これは、1年内返済予定の長期借入金が56百万円、未払金が132百万円減少したものの、短期借入金が1,803百万円増加したことなどによるものです。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて9.9%減少し、8,048百万円となりました。これは、長期借入金が851百万円減少したことなどによるものです。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて3.0%増加し、17,496百万円となりました。

## (純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて128百万円減少し、7,602百万円となりました。これは、利益剰余金が115百万円減少したことなどによるものです。

## ②キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前連結会計年度末に比べて607百万円増加し、当第1四半期連結会計期間末には5,673百万円となりました。

当第1四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は128百万円(前年同四半期は489百万円の支出)となりました。これは、主に売上債権の減少額154百万円、税金等調整前四半期純利益24百万円があったものの、棚卸資産の増加額51百万円、未払消費税の減少額100百万円、未払法人税の減少額80百万円があったためであります。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は5百万円(前年同四半期は73百万円の支出)となりました。これは、主に有形固定資産の取得による支出16百万円、無形固定資産の取得による支出7百万円、差入保証金の回収による収入31百万円があったためであります。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果獲得した資金は740百万円(前年同四半期は1,025百万円の収入)となりました。これは、主に長期借入金の返済による支出1,007百万円、配当金の支払額120百万円があったものの、短期借入金の増加額1,803百万円、長期借入れによる収入100百万円があったためであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年7月15日の「2022年5月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年5月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,066	5,673
売掛金	1,563	1,408
商品	14,569	14,621
その他	350	314
貸倒引当金	△3	△3
流動資産合計	21,546	22,014
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,247	1,230
その他（純額）	95	90
有形固定資産合計	1,342	1,320
無形固定資産		
ソフトウェア	350	322
ソフトウェア仮勘定	47	47
その他	1	1
無形固定資産合計	399	371
投資その他の資産		
長期前払費用	60	53
差入保証金	1,367	1,338
その他	2	2
貸倒引当金	△1	△1
投資その他の資産合計	1,429	1,393
固定資産合計	3,171	3,085
資産合計	24,718	25,099

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年5月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年8月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	3,154	3,158
短期借入金	149	1,952
1年内償還予定の社債	30	30
1年内返済予定の長期借入金	3,334	3,278
未払金	376	243
未払法人税等	120	28
未払消費税等	245	145
契約負債	36	0
株主優待引当金	28	17
賞与引当金	58	21
資産除去債務	6	6
その他	514	563
流動負債合計	8,056	9,447
固定負債		
社債	165	150
長期借入金	6,852	6,000
長期末払金	84	70
役員退職慰労引当金	400	404
退職給付に係る負債	169	168
資産除去債務	1,205	1,203
その他	53	50
固定負債合計	8,931	8,048
負債合計	16,987	17,496
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,330	2,330
資本剰余金	3,807	3,807
利益剰余金	1,590	1,474
自己株式	△0	△0
株主資本合計	7,728	7,612
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△14	△26
その他の包括利益累計額合計	△14	△26
新株予約権	16	16
純資産合計	7,730	7,602
負債純資産合計	24,718	25,099

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年6月1日 至 2021年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年6月1日 至 2022年8月31日)
売上高	5,967	6,038
売上原価	3,587	3,555
売上総利益	2,379	2,482
販売費及び一般管理費	2,499	2,463
営業利益又は営業損失(△)	△119	18
営業外収益		
仕入割引	5	6
業務受託料	23	24
その他	19	13
営業外収益合計	47	44
営業外費用		
支払利息	35	33
営業外支払手数料	2	0
その他	1	4
営業外費用合計	39	38
経常利益又は経常損失(△)	△110	24
特別利益		
新株予約権戻入益	0	-
特別利益合計	0	-
特別損失		
固定資産除却損	17	-
減損損失	5	-
特別損失合計	22	-
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△133	24
法人税等	15	20
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△148	4
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△148	4

(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年6月1日 至 2021年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年6月1日 至 2022年8月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△148	4
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△3	△12
その他の包括利益合計	△3	△12
四半期包括利益	△152	△8
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△152	△8

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年6月1日 至 2021年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年6月1日 至 2022年8月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△133	24
減価償却費	75	77
固定資産除却損	17	-
減損損失	5	-
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	4	4
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△1	△1
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△1	0
受取利息及び受取配当金	△0	△0
支払利息	35	33
営業外支払手数料	2	0
売上債権の増減額(△は増加)	△71	154
棚卸資産の増減額(△は増加)	208	△51
仕入債務の増減額(△は減少)	△524	3
未払消費税等の増減額(△は減少)	9	△100
その他	△11	△158
小計	△386	△13
利息及び配当金の受取額	0	0
利息の支払額	△36	△34
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△66	△80
営業活動によるキャッシュ・フロー	△489	△128
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△9	△16
無形固定資産の取得による支出	△41	△7
差入保証金の差入による支出	△4	△3
差入保証金の回収による収入	10	31
その他	△28	△9
投資活動によるキャッシュ・フロー	△73	△5
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	1,701	1,803
長期借入れによる収入	1,000	100
長期借入金の返済による支出	△1,514	△1,007
社債の償還による支出	△15	△15
営業外支払手数料の支出	△2	△0
割賦債務の返済による支出	△24	△19
配当金の支払額	△120	△120
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,025	740
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	461	607
現金及び現金同等物の期首残高	3,853	5,066
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,314	5,673

（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）

（税金費用の計算）

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、税引前四半期純損益に一時差異等に該当しない重要な差異を加減した上で、法定実効税率を乗じて計算しております。

（追加情報）

（新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する会計上の見積り）

前連結会計年度の有価証券報告書の重要な会計上の見積りに記載した、新型コロナウイルス感染症の影響については、ワクチン接種等により、2022年度にかけて徐々に回復していくとの仮定に重要な変更はありません。

（グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱いの適用）

当社及び一部の国内連結子会社は、当第1四半期連結会計期間から、連結納税制度からグループ通算制度へ移行しております。これに伴い、法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示については、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」（実務対応報告第42号 2021年8月12日。以下「実務対応報告第42号」という。）に従っております。また、実務対応報告第42号第32項(1)に基づき、実務対応報告第42号の適用に伴う会計方針の変更による影響はないものとみなしております。

## (セグメント情報)

## I 前第1四半期連結累計期間(自 2021年6月1日 至 2021年8月31日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計	調整額(注) 2	四半期連結損 益計算書計上 額(注) 3
	ヴィレッジヴァンガード				
売上高					
外部顧客への売上高	5,967	—	5,967	—	5,967
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	—	—	—
計	5,967	—	5,967	—	5,967
セグメント損失(△)	△119	△0	△119	△0	△119

(注) 1. 「その他」の区分は、比利緹卡(上海)商貿有限公司及びTITICACA HONGKONG LIMITEDが含まれておりま  
す。

2. セグメント損失の調整額△0百万円は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## II 当第1四半期連結累計期間(自 2022年6月1日 至 2022年8月31日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計	調整額	四半期連結損 益計算書計上 額(注) 2
	ヴィレッジヴァンガード				
売上高					
外部顧客への売上高	6,038	—	6,038	—	6,038
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	—	—	—
計	6,038	—	6,038	—	6,038
セグメント利益	18	△0	18	—	18

(注) 1. 「その他」の区分は、比利緹卡(上海)商貿有限公司及びTITICACA HONGKONG LIMITEDが含まれておりま  
す。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。